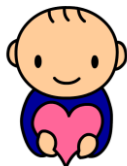


# プラス1



～いつもの支援を一工夫～

岐阜県立東濃特別支援学校  
地域支援センター通信  
No. 40 (H30. 10月号)



公開講座（センター的機能研修会）へのご参加  
ありがとうございました！！！！

今年度は、広島大学 湯澤正通先生、静岡大学 伊田勝憲先生を招聘し、研修会を行いました。どちらの講座も、たくさんの皆様にご参加いただきました。また、研修後のアンケートのご協力、ありがとうございました。ご意見やご感想は、講師の先生方にお渡ししました。研修会の運営に関しましては、今後開催の際の参考にさせていただきます。

ワーキングメモリの考え方、実行機能の大切さ、参加できるようにするための方法、理論に基づいた支援の方法をとて分かりやすく説明していただき、理解が深まりました。チェックリストを活用しながら、授業の見直しをしてみようと思いました。



小学校でかかわれる不登校児への時間は長い不登校（ひきこもり）のほんの少しの短い時間、しかも初期のかかわりを慎重にしたい時期でもあり、日々難しさを感じています。最悪の事態を考えながらポジティブな見立てをしていくなど、たくさんのヒントをいただきました。

## 岐阜県立東濃特別支援学校 公開授業研究会

# みんなが「楽しい」と感じる授業づくり ～学びを支えるチーム力～

2018年  
日時 10月24日 水 13:15-17:00

岐阜県立東濃特別支援学校  
土岐市泉町河合根ノ上1127-10

公開授業Ⅰ 13:15～14:10  
公開授業Ⅱ 14:10～15:00  
ビデオ参観 15:00～15:45

講演会 16:00～17:00  
岐阜聖徳学園大学教育学部  
特別支援教育専修  
教授 安田 和夫氏



申し込み  
お問い合わせ

岐阜県立東濃特別支援学校 地域支援センター  
TEL:0572-55-4821

岐阜県立東濃特別支援学校

## 第 福祉サービス事業所 2回 と学校との交流会

2018年 11月2日(金)



### 日程

9:30～ 受付  
9:40～ 学校見学（自由に授業をご参観ください）  
10:50～ 意見交流会

皆様と学校との連携強化を目指します。ぜひ、ご参加ください。

## 岐阜県立東濃特別支援学校

土岐市泉町河合根ノ上1127-10

時間 9:30～12:00

会場 本校各教室及び特別教室

参加申し込みは、専用申込書にてFAXをお願いします。

お問い合わせ 岐阜県立東濃特別支援学校 地域支援センター（保母・水上）

TEL 0572 55-4821 FAX 0572-55-4829



## 困っているのは誰？～困った子は困っている子～

「授業が分からなくなると離席が多くなって困っています、どう支援したらいいですか？」といった相談がしばしばあります。答えは、困っている先生の相談内容にありますよね。『先生が分かる授業をすること』がこの先生への答えです。相談者の先生の授業改善こそが求められている支援です。一番、困っているのは、授業が分からない子どもだと気付かないと支援は進みません。このケースの場合、困ってしまった結果、離席せざるを得ない状況に追い込まれている、先生に SOS を発信しているといったように視点を変えて考えることが支援の第一歩です。子どもの理解、支援の改善がないと、例えば子どもが行ってしまっている逃避行動がさらに強化されてしまうことも考えられます。

同様な例で、「集中して話が聴けず、机の下にもぐってしまったたり、教室から飛び出してしまったりして困っています。」といった小学校中学年の担任からのケースがありました。

授業を参観させていただくと対象の子どもは確かに机の下にいましたが、他にもよそ事をしたり、机に臥せったりしている子が学級の3分の2ほどいます。つまり、話を聴けていないのです。どうしてでしょうか？原因は先生の話し方にありました。長時間、同じトーンで話し続けています。板書することも図や絵を提示することもなく、話し続けています。つまり、『先生の話が長い、聴き取りにくい、難しい、分かりにくい』が『聴きたくても理解できなくて困っている子ども』を生み出しているということです。

友達とのトラブルが多く、友達を叩いたり、物を投げたりなどをする子どもへの支援に対する相談も多くあります。このケースでの支援の視点を考えてみましょう。トラブルがあるということは、友達とかかわりたいという気持ちがあるということ、つまり、かかわり方が分からないので不適切な行動になってしまっているのだという視点をもったら、どうでしょう。注意ばかり繰り返す支援から適切なかかわり方を教える支援に変わるはずですよ。

支援者が、子どもを「わがまま」「自分勝手」「やる気がない」「怠け」「屁理屈」だと捉え、「困った子」と見続けているうちは適切な支援が講じられません。子どもを理解すれば、その子に分かりやすい支援ができる、これが基本です。困ったときは、この基本にもどって支援を考えましょう。

### 困っているのは誰？



いつも先生に叱られる！みんなと同じようにしたいのにできない。先生、僕のこと、私のことを分かってよ！

注意してもやってくれない！この子につきっきりになってしまう。注意してばかりで活動が進まない！



いつも先生から連絡がある…。家では困っていないのに…。これもあれも家でやらせなきゃいけないの？！こんなはずじゃなかったわ。



### 支援の視点を見直そう



- ①ルールを見える形で示して、説明する（視覚支援）
- ②モデルを見せる
- ③やってみる

「自己有能感」

「分からない」から「できない」状況にあると仮定する

「何を分かせたいか」してほしいこと（期待すること）をはっきりさせる

「分かる方法」で伝える

できたことに対して「分かるように」評価をする

僕もできる！

例えば…ルールを知って守ってほしい など優先順位をつける

「期待される行動」ができているときに認める。クラスみんなと同じところで認める。言葉だけでなく、見える形で認める。